



## 峠のお地藏さん健在

もり としひろ  
森 敏博 (友の会会員)

かつて、阿南市 橘町 鶴と桑野町 池之内を結ぶ街道がありました。

峠に立つお地藏さんにぜひ再会してみたいと思い、そのルートを通る人に尋ねてみるのですが、どの方も「今は通る人もなく、道もわからなくなっている。崖が崩れて通れない」とおっしゃいます。「もうだめなのかな」と半ば諦めていました。そんな折、鶴の方が「何とか行けるんちゃうで!」と自ら案内してくださり、遠い記憶にある「峠のお地藏さん」と60年ぶりにお会いすることができました(写真1)。

お地藏さんは大きな石で囲まれ、正面をこちらに向けて美しいお姿でした。お蔭で倒木が倒れかっ

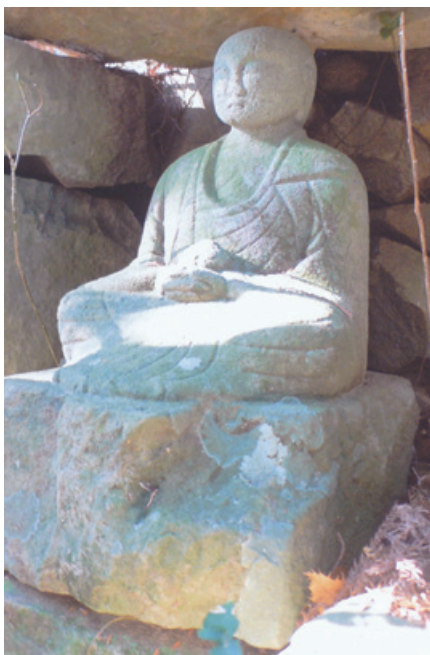


写真1

ても傷むことなく、長年の風雪にも耐えておられました(写真2)。

台座は隅の一部が大きく欠けてはいるものの、その下の「三界萬霊」と刻まれた台の上に載っております。「三界萬霊」の文字の右側には「地藏菩薩以大慈悲」、左側には「若聞名号不墮黒闇」とあります。更にその下の石には「桑野講中 鶴浦下福井組講中」とあります。左側面には「桑野邑池之内」の文字、右側面に建立設立の時期を示す文字があると思われませんが、今は土に埋まり、その上、石の囲いとの間が狭くて確認できません。

案内してくださった方によると、昭和30年頃は通行が盛んであったようです。昭和40年頃は、ご自分も青年団の一員として年に一度道の清掃や補修をしていたそうです。鶴から桑野への最短ルートであり、生活の道でもあったようです。

福井川には福井町湊まで大阪通いの汽帆船が通っており、この汽帆船に積み込むために、物資はこの道を通って運ばれました。福井から徳島へ行くにも、この峠道を通って桑野駅から汽車に乗るのが早かつ



写真2



写真3

たそうです。記憶をたどると小学生の頃、この峠道  
を<sup>まんぶくじ</sup>桑野の萬福寺へ遠足に行った思い出があり  
ます。

この峠道の鵜側入り口にもお地蔵さんがあり、前  
に「浅草観世音」の道標が建っています（写真3）。  
その側面に「南<sup>つばきどまり</sup> 椿泊へ四里六丁」、「北 至徳島  
四十里」、「西<sup>びょうどうじ</sup> 平等寺一里十四丁」の文字がありま  
す。

桑野町側の山を降りた所には大きな溜池があり、  
水神さんが<sup>まつ</sup>祀られています（写真4）。ここから峠  
までは急坂になりますが、杉林の中を約20分位で  
着きます。四国電力の電柱を保守管理するために所  
員が通っているそうで、比較的登りやすいです。鵜  
側だと30分ほど竹林と杉林をだらだら登っていき  
ます。

この峠道も、昔の人の<sup>けんきやく</sup>健脚なら30分ほどで越し



写真4

たことでしょう。交通機関の発達とともに、人が通  
らなくなれば峠道は消えていきます。そして、人の  
記憶から峠でお地蔵さんが見守ってくれていたこと  
も忘れられていきます。

母親に手を引かれて通った峠道、懐かしさだけで  
なく、この美しいお地蔵さんをぜひ多くの人に知っ  
てもらいたいと願わずにはられません。

## 友の会行事報告

### 化石を探そう（安田町）

- 日時 11月8日（土）9：00～19：00
- 場所 高知県安田町
- 担当 <sup>とくのとしはる</sup>徳野壽治（友の会役員）、<sup>なか おけんいち</sup>中尾賢一・  
<sup>つじの やすゆき</sup>辻野泰之（博物館学芸員）、<sup>てつたにまさふみ</sup>鉄谷雅史（博  
物館主任）
- 参加者 27名

作業をしていると汗ばむくらいの陽気の下、<sup>さめ</sup>鯨の  
歯が出るのを期待しながらハンマーを振るう姿があ  
ちこちで見られました。参加者の中には、二枚貝を  
ほぼ完全な形で発見するなど、なかなかの収穫を挙  
げた方がおられました。

（鉄谷雅史：博物館主任）

## Vo!c'e 参加者の声

### ●<sup>いわ きひでゆき</sup>岩城秀行さん

楽しい時間をありがとうございました。私は主に  
硬い岩から中生代の化石を採集してきましたので、  
今回の採集は気楽に採集できました。

ツノガイ、ツメタガイ、トサシマミクリ（絶滅種）、  
スズキサルボウ（絶滅種）、オオスダレガイ、ベニ  
グリ、シラスナガイ、トサツマベニガイ（絶滅種）、  
ホソモエボラ（絶滅種）、ヌノメアカガイ、マツ  
ヤマワスレ、セスガイ他、短時間にたくさんの種類  
が採集できたこともよかったです。

トサシマミクリにはオレンジ色の色帯が残ってお  
り、260万年前の化石とは思えない美しさでした。



クリーニングされた化石

また、ツノガイには同じような太さのところにツメタガイの捕食痕があり、ツノガイの強さを感じました。

行事の最後に、皆さんがどのような化石を採集されたのかを解説していただければよかったと思います。化石はもろいので、水洗いは細心の注意が必要です。これからもこの行事を楽しみにしています。

●<sup>しのはらみずき</sup>篠原瑞稀さん

保存状態のよい貝の化石をたくさん見つけることができうれしかったです。今、学校で地層について学習しているところなので、とても勉強になってよかったです。また参加したいです。



作業の様子

●<sup>あべりこ</sup>阿部理子さん

化石を取って楽しかったです。化石は思ったより小さかったのでびっくりしました。5 km 歩いたときは長く感じたけれど、1 km はあっというまでした。



参加者の皆さん

## 友の会行事報告

## 京都日帰り研修

- 日時 11月15日(土)
- 場所 京都市内
- 担当 <sup>とりい たかし</sup>鳥居 喬(友の会役員)、<sup>おおはしとしお</sup>大橋俊雄(博物館学芸員)、<sup>てつたにまさふみ</sup>鉄谷雅史(博物館主任)
- 参加者 50名

京都国立博物館の特別展覧会「<sup>こくほうちやうじゆうぎ</sup>国宝鳥獣戯画と<sup>こうざんじ</sup>高山寺」が4時間待ちとなり、<sup>へいせいしんかん</sup>平成知新館オープン記念展「<sup>みやこ</sup>京へのいざない」のみの観覧となりました。その後、<sup>こうだいじ</sup>高台寺では紅葉を背景にして記念撮影を行い、<sup>りやうぜん こくじんじや</sup>京都霊山護国神社では、<sup>し</sup>坂本龍馬と中岡慎太郎を偲ぶ多くの人々の姿に驚かされました。

(鉄谷雅史：博物館主任)

## Vo!c 参加者の声

●<sup>たきこ</sup>滝よし子さん

このたび初めて参加させていただき、大変お世話になりました。今回は高台寺<sup>しやう</sup>掌美術館を拝観することができてよかったです。<sup>きたのまんどころ</sup>北政所の実家である木下家が、豊臣家の親族としての誇りを秘めて、外様大名として明治時代まで存続していたことを初めて知りました。<sup>びつちゆうあしもりはん ぶんご ひじはん</sup>備中足守藩・豊後日出藩ともに小藩ながら、北政所の精神を受け継いでこられたのだと

感じた次第です。

●<sup>あべ まりこ</sup>阿部万里子さん

平成知新館で数多くの秘宝を目の当たりにして、ただただ圧倒されて感動するばかりでした。高台寺・<sup>えんとくいん</sup>圓徳院を拝観し、北政所の姿を想像しながら太閤秀吉のすごさを実感しました。紅葉に彩られた庭園を一日中眺めていたと思いました。坂本龍馬の墓参りはできませんでしたが、会員の皆様と楽しく過ごすことができました。



平成知新館



参加者の皆さん

友の会行事報告

リースを作ろう

- 日時 12月14日(日) 13:00～17:00
- 場所 博物館実習室
- 担当 <sup>なかむら ゆか</sup>中村由香・<sup>なん ぶ ようこ</sup>南部洋子(友の会役員)、  
<sup>おがわ まこと</sup>小川 誠(博物館学芸員)、<sup>てつたに まさふみ</sup>鉄谷雅史(博物館主任)
- 参加者 16名

寒い中、文化の森でカズラを採集した後、用意した飾り付けグッズを選びながら、それぞれが個性あふれるリースを作りました。自分が作ったリースを家に飾って迎えるクリスマスは格別です。会員の皆様が幸せな一年を過ごせるように、みんなで願いました。

(鉄谷雅史：博物館主任)

**Voice** 参加者の声

●中村由香さん

久しぶりに行事に参加しました。文化の森に入ってカズラを集めながら、紅葉を楽しむことができました。その後、集めたカズラでリースを作るのですが、なかなか丸い形にするのが難しく苦勞しました。でも、飾り付けをしていくうちに、リースの形がいびつなのも気にならなくなり、自分らしいかわ



カズラを採集しています

いいリースを作ることができました。他の方のリースを見ていると、それぞれ個性的ですてきなものばかりでした。とても楽しかったです。お世話になりました。

#### ●南部洋子さん

寒い日でしたが、外に出て木の実やカズラを集めることから始め、それが作業に向けてのよい導入となりました。100均に行けばリースも飾りも豊富にあります。自然にあるもので工夫をこらし、オリジナルのリースを作る過程を、時間を忘れて楽しむことのできた貴重な体験でした。



飾り付けをしています

#### ●くどう あおい 工藤 葵さん

今日はリース作りをしてたのしかったです。とてもかわいいリースができました。うれしいです。わたしが作ったリースは小さかったので、ツリーにかざりたいと思いました。

### 友の会行事報告

## こんにゃく作り

- 日時 2月1日(日) 10:00～12:00
- 場所 博物館実習室
- 担当 おおすぎようこ 大杉洋子(友の会役員)、しょうたけのりこ 庄武憲子(博物館学芸員)、てつたにまさふみ 鉄谷雅史(博物館主任)
- 参加者 29名



コンニャクイモをミキサーにかけます

最近では、コンニャクイモからこんにゃくを作る機会ほとんどありません。参加者の中には、子どもの頃に作った経験のある方が何人かおられたので、懐かしさを感じながら作られていたようです。作ったこんにゃくは、それぞれの家庭に持ち帰っていただきました。思い出話に花を咲かせながら、素朴な味わいを楽しまれたことと思います。

(鉄谷雅史：博物館主任)

### Vo!c'e 参加者の声

#### ●おがたはつえ 小方初枝さん

コンニャクイモ、なぜか子どもの頃を思い出します。こんにゃく作りは初めての経験でしたが、疎開した田舎の風景を思い出しながら、ものづくりの時間を過ごさせていただきました。孫たちと一緒にいろんな行事に参加して思うことですが、準備をしてくださる皆様あってこそよい経験です。心より感謝いたします。できあがったこんにゃくは、夕食でコンニャクイモ談義に花を咲かせながら、おいしくいただきました。

#### ●おがたいしん 小方惟心さん

こんにゃく作りは初めてで、とてもドキドキしました。途中で手がかゆくなったけど、楽しかったです。特に、ミキサーにかけてドロドロになったコンニャクイモを、バケツの中で混ぜるところがおもしろかったです。ネバネバで重くて不思議な感じでした。

たが、ゆであがったこんにゃくは、とてもおいしかったです。



もうすぐ完成です



大海原を往く

念でした。帰港してからメジロの刺身と味噌汁をいただき、その後は街並みの散策や城跡の見学をして、すごく楽しかったです。いい勉強になりました。

### 友の会行事報告

## 大敷網体験

- 日時 2月8日(日) 12:00～15:00
- 場所 かいようちょうともおくぎょこう  
海陽町 鞆奥漁港
- 担当 みずのかずのり 水野和憲(友の会役員)、さとうよういち 佐藤陽一・  
いそもとひろのり 磯本宏紀(博物館学芸員)、てつたにまさふみ 鉄谷雅史(博物館主任)
- 参加者 16名

早春の爽やかな海と空が私たちを出迎えてくれました。波が高くて何度も潮をかぶりましたが、これが大海原の醍醐味です。残念ながら潮の流れが悪かったために、船は網を引き上げることなく20分ほどで帰港しました。メジロの刺身と味噌汁で満腹になった後は、水野さんが用意してくださった資料を見ながら、海部の歴史や文化を楽しく学ぶことができました。

(鉄谷雅史：博物館主任)

### Vo!c<sup>e</sup> 参加者の声

● しのはらみずき 篠原瑞稀さん

当日は快晴で船に乗るのが楽しみでした。でも潮の流れが悪かったので、網を引き上げられなくて残

## 報告 平成27年度総会

平成27年度友の会総会が、4月26日(日)午後2時30分より、博物館講座室にて開催されました。26年度の事業報告・決算報告並びに27年度の事業計画案・予算案について審議が行われ、承認されました。その後、場所を1階企画展示室に移し、担当の岡本治代学芸員による企画展「瓦から見る古代の阿波一寺院と役所一」の展示解説を受けました。

今年度は、日帰りバスツアーを3回計画しています。その他にも楽しい行事がたくさんありますので、奮ってご参加ください。

### 1. 平成27年度友の会行事

- (1) 深淵の自然観察(日帰りバスツアー)(終了)  
実施日：5月23日(土)  
場 所：三好市東祖谷
- (2) 古代の繊維を取ろう(終了)  
実施日：6月28日(日)  
場 所：博物館実習室
- (3) 虫送りを見に行こう(中止)  
実施日：7月17日(金)  
場 所：阿南市長生町

- (4) うだつの街並み見学  
実施日：9月26日(土)  
場 所：美馬市脇町
- (5) ウミホテルの観察会  
実施日：10月3日(土)  
場 所：鳴門市大毛島
- (6) 奈良日帰り研修(日帰りバスツアー)  
実施日：10月31日(土)  
場 所：奈良県斑鳩町
- (7) 化石を探そう  
実施日：11月14日(土)  
場 所：兵庫県南あわじ市
- (8) 閑谷学校の見学(日帰りバスツアー)  
実施日：11月28日(土)  
場 所：岡山県備前市
- (9) 梅見ハイキング  
実施日：3月12日(土)  
場 所：神山町阿野

※ 実施日や場所については変更することがあります。  
会員の皆様には開催前に詳しくご案内させていただきますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

## 2. 広報活動

博物館広報印刷物(月別催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から等)を提供します。

## 3. 図録の印刷及び販売

- (1) 企画展図録「瓦から見る古代の阿波一寺院と役所一」を印刷・販売します。(販売中)
- (2) 企画展図録「阿波木偶箱まわりの世界」を印刷・販売します。
- (3) 企画展図録「鳥居龍蔵ー世界に広がる知の世界ー」を印刷・販売します。(予定)

## 4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No.56・57を発行・配布します。

## 5. 会員募集

- (1) 博物館企画展チラシに会員募集の広告を掲載し、新会員の獲得に努めます。
- (2) 「文化の森こどもの日フェスティバル」で友の会コーナーを設置し、友の会のPRに努めます。

## 6. 友の会グッズの販売

クリアファイル2種(人文・自然)を販売します。

## 7. 平成27年度友の会役員

会長：鳥居 喬

副会長：大杉洋子・行成正昭・高島芳弘(館長)  
幹事：伊勢ひとみ・徳野壽治・中村由香・松家京子・水野和憲・阿部末美  
監査：石尾和仁・住友セツ子  
事務局長：久米みどり(副館長)  
事務局員：大橋俊雄(上席学芸員)・真鍋憲人(係長)・鉄谷雅史(主任)・山田量崇(主任)

## 龍蔵と「仏塔」と「いただきさん」

いしい のぶお  
石井 伸夫(鳥居龍蔵記念博物館 課長補佐)

タタラ、チヌリクラン、ロショウ、クツクルケシ、ニボンボン…。

皆さん、はじめまして。鳥居龍蔵記念博物館に新しく赴任しました石井伸夫と申します。よろしくお願いいたします。

さて、冒頭に記した単語は、4月の人事異動以降、私が新しく覚えた文化財の名前です。私は高等学校の日本史担当教員として約30年の勤務歴をもちますが、その期間の約半分にあたる15年間は、徳島県教育委員会文化財課(現在の教育文化政策課)、公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センターといった部署で、主に文化財の保護を担当してきました。そのようなこともあって、今回の異動で当館への勤務を命じられた際にも、「まあ何とかかなるか」という甘い感覚を抱いてしまったのですが、その慢心を一気に吹き飛ばしたのが、冒頭に記した文化財たちでした。当館の展示品は、何ともいえないオーラを放



ちつつも、一体どうやって説明したらよいのか悩ましい「強者」だった訳です。それから朝の開館立ち会いの度に展示品を「見つめる」日々が始まりました。このような展示品の中で、目下、私の目を引きつけてやまないのが、展示室壁面の写真資料です。鳥居龍蔵は日本で最も早い時期に現地調査に写真撮影を導入したことで有名ですが、展示室を飾る写真群は、ガラス乾板に焼き付けられた「鳥居龍蔵のまなざし」そのものです。今回は、このような写真資料の中で、現在注目している（気になって仕方がない）資料を2点紹介させていただきます。

一つ目は「仏塔」の写真です。第1展示室壁面にはたくさん仏塔の写真が展示されています。彼の足跡はほぼ東アジア全体にわたりますが、特に後半生はモンゴル・中国東北部といった地域の調査に傾倒していきます。これらの地域に広まり、隣接する朝鮮半島や我が国を含む広大な地域の文化的共通項となったのが仏教です。彼の「まなざし」はこのような仏教文化を象徴するものとして「仏塔」を捉えていたように思えてなりません。奥の深い分野ですが、時間をかけてじっくり取り組んでみたいと考えています。



女性の頭上運搬（首里付近）  
（東京大学総合研究博物館蔵）

二つめは「頭上運搬」です。第1展示室エントランス正面、やや上よりの壁面に左の女性の写真があります。初めて見た印象は、「あっ！いただきさんと同じや」というものでした。写真は沖縄の女性をとらえたものですが、阿波にも「いただきさん」と呼ばれる頭上運搬スタイルで海産物の行商を行う女性たちがいました。もちろん「頭上運搬」は世界の各地で見られるものであり、「いただきさん」と沖縄の女性を直接関連づける資料があるわけではありませんが、同様の習俗であると思われます。「頭上運搬」の歴史は古く、中世の絵巻物にもその姿を多く見ることがで

きます。近世には減少傾向をたどりますが、近代以降も西日本の海沿いの地域を中心に伝えられています。彼が撮影した写真では、沖縄以外に朝鮮半島でも頭上運搬の女性を確認することができます。当時の写真撮影は、ガラス乾板という重く有限な撮影素材を消費することから、何を写すのか明確な意図をもって行われており、彼が頭上運搬の習俗に学問的価値を見いだしていたことは間違いないと思われます。彼自身が故郷の「いただきさん」の習俗を認識していたかどうかは不明ですが、彼と阿波をつなぐよい事例になればと思っています。

以上、赴任3か月での初歩的な雑感となりましたが、着実に資料の整理を進めながら、彼が集めた「宝の山」を様々な方法で顕在化させていきたいと思えます。今後ともよろしく願いいたします。

## 新スタッフ紹介

まなべのりひと  
●真鍋憲人（企画担当係長）

三好郡東みよし町加茂小学校から転任してまいりました。前任校では理科を担当していました。現在はJRで通勤しています。

博物館では、徳島県其自然や文化とふれ合うことができ、毎日が新しい発見と驚きで、楽しみながら勤務しています。

皆様が築いてこられた友の会のスタッフとして、活動に貢献できるよう一生懸命取り組んでまいります。どうかよろしくお願いいたします。



### アワーミュージアム 第56号

2015年7月31日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp